

奉祝

賜伊勢の神宮鳥居奉曳祭

射水神社社報
第24号



射水



86年ぶりの奉曳によって再建された第一鳥居

御鎮座千三百四十年・御遷座百四十年を前に

二上山の賦（『万葉集』巻十七 三九八五番歌）

射水河 い行きめぐるる

玉くしげ 二上山は

春花の 咲ける盛りに

秋の葉の にはへる時に

出で立ちて ふりさけ見れば

神からや そこば貴き

山からや 見が欲しからむ

すめ神の 裾廻の山の

淡路の 崎の荒磯に

朝なぎに 寄する白波

夕なぎに 満ち来る潮の

いや増しに 絶ゆることなく

いにしへゆ 今をつつに

かくしこそ 見る人ごとに

かけてしのはめ

大伴家持

悠久の昔、この地に人々が住みつくようになってから、二上山と射水川（現在の小矢部川）の自然にめぐまれ、日々二上山を仰ぎ、農耕に励んできた古代の人々は、自然の有り難さと恐ろしさを感じ取り、次第に信仰を抱いて、二上山に鎮まる二上神を崇めるようになりました。二上神が祀られたのは、千数百年以上前、或

は神代とも伝えられていますが、天武天皇三年正月、対馬の国司が初めて銀を貢上の時、これは目出度いことと、悉く諸の神祇に幣帛を奉られたとの『日本紀』の史実から千三百四十年の歴史を辿ってまいりました。

世の移ろいの中に、日本の国家体制が整い、その統制の下に、都に聞こえるほど地方の崇敬を集め、さらに国家的な尊崇の対象ともなり、朝廷より神階が奉授され、やがて、延喜式内社として越中最高位の名神大社となり、隆昌を極めました。

しかし、律令体制の弛緩に伴い、射水神社は時に滔々たる神仏習合の風を受け、二上大権現と称し、養老寺が所管する社僧と共に祭典を執り行い、むしろ社僧の支配の下に甘んじたようでありました。

戦国武将争覇の時代に入ると、川を東にした丘陵二上山が要害の砦として争奪の目標になり、社人・社僧も戦禍に巻き込まれ、兵火を蒙ること三度に及び、頽勢年と共に、奈良の御代より受け継がれてきた報謝米制度も途絶えて貧窮極まりなく、民衆の崇敬より離れるに至りました。

やがて、前田利家公が領し、北陸の雄藩として立つに及び、民心収攬の施策から社領寄進・初穂米取纏め等、社寺の保護を図り、次いで利

射水神社宮司 松本正昭

長公が高岡に居城を構えるや、報謝米制度を復活し、越中全土より戸別一升宛ての取集めを布告し、これは明治三年まで続き、民心の射水神社への信仰が甦ったようであります。

明治四年、神武建国の古に復す明治維新の基本政策のもと、国幣中社に列し、神仏分離の規制に従い、鎮座地が神仏混淆の名残の強い事や、諸条件を鑑みて、明治八年、高岡の古城本丸跡を格好の神苑適地として遷座されるに至りました。

遷座後の七十年間は県内一円からなる崇敬者の奉賽の他、国費の支弁で支障はありませんでしたが、終戦後、国家管理から離れ、国費も断たれ、氏子を持たない神社として神社護持に事欠く有様でした。この状を憂え、有志の方々により奉賛会が組織され、朝夕の奉仕に事欠く事無く、今日に至っております。

悠久千三百四十年の歴史・遷座百四十年を顧みる時、人の世は栄枯盛衰、浮沈は常の習いながら、神威は無窮に替わる事無く、普く照らし、いやちこな神徳を敬慕するばかりであります。

この度の式年大祭を迎えるに当たり、崇敬者各位の赤誠溢れる篤志によって本殿屋根修繕・手水舎移設新築・境内整備等の記念事業を、八月五日をもって完遂出来ましたことに、衷心より感謝申し上げる次第であります。

平成二十七年 度 崇 敬 奉 賛 会 総 会

八月九日、

恒例の射水神社崇敬奉賛会総会が開催されました。

総会に先立ち、このたび境内手水舎より移設された

手水鉢（明治八年・木舟町献納）が、新たに翼廊を増設した手水処として披露の後、初めて使用され、正式参拝では、橋総裁と穴田会長がそれぞれ玉串を奉り拝礼しました。

総会は昨秋、新装となった饗膳殿で開かれ、先ず、綿貫名誉会長・物故会員への黙祷が捧げられました。

開会の辞に続き、国歌斉唱、宮司が鳥居奉曳祭や式年大祭記念事業への取り組みを交えて挨拶。橋総裁、穴田会長よりは常日頃よりの射水神社への崇敬と、進む境内整備や式年大祭への奉賛に対しての感謝の言葉を交えてそれぞれ挨拶。

議事では、新顧問就任・入会会員紹介



総裁挨拶



目録の贈呈

平成二十六年度の活動報告及び収支決算報告が行われました。また、平成二十七年の活動計画（案）が示され、式年大祭

記念事業について荻布実行委員長よりこれまでの経過報告があり、記録画像を放映、事務局が大祭日程概要を説明し、予算案が審議、承認されました。

そして、崇敬奉賛会よりの式年大祭奉

賛金の目録が会長より宮司に贈呈され、九月の斎行へ向けた機運が高まりました。引き続きの基調講演は「国史跡 高岡城跡の魅力



講演される田上和彦先生

について「築城から現在、そして未来へ」と題し、高岡市教育委員会事務局文化財課 田上和彦主事よりご講演を頂きました。

新入会員

顧問御委嘱

山口 正志

新会員

◇個人会員
石灰 昭光
野村 利実
牧 芳枝

◇法人会員

株式会社 竹内乾物
富山テレビ放送 株式会社
株式会社 日東
日本海ツーリスト 株式会社
一般財団法人 北陸予防医学協会
平和交通 株式会社
株式会社 山本建成工業
(敬称略)

鳥居奉曳祭

伊勢神宮式年遷宮により撤下いただいた外宮板垣北御門御用材は、昨年、十一月十一日、神都伊勢より越中の国へと到着し、射水神社御用達である小矢部市の森田建設株式会社へと運ばれました。

平成二十七年正月、毎年、十六万人に及ぶ初詣で賑わう参道脇に造営中の新水舎の基礎部分に御用材の笠木部を奉安、菊花御紋幕で装飾した幄舎、由緒看板も新たに設置し、四月五日の奉曳行事を啓発しました。新聞にも「合格への鳥居」との見出しで大きく取り上げられました。



特別展示された鳥居の笠木



五角形の鳥居の断面



街中を奉曳される鳥居の笠木



鎮物



福銭

記事には、鳥居の「笠木」の部分五角柱で「合格」との語呂合わせや、桜が咲く四月五日に拝殿前に建てられるため「合格への門」になると口コミで広がったよう。と書かれ、初詣期間中、受験生となる中高生や就職試験に臨む大学生の間でも話題となりました。



北日本新聞
(平成27年2月13日掲載)

二月十二日、「鳥居地鎮祭」斎行。儀式で使用される「盛り砂」は越中国内として氷見市小境海岸から献納の清砂で奉製されました。また伊勢市の宮川上流で神領民により採取され、神宮では殿舎の周囲に敷かれる「お白石」と金属製の「鎮物」、さらに、衣食住全ての産業の神様である豊受大神宮より拝受した鳥居であることから紅白の水引で結わえられた農業・工業・水産業と林業に通じる伸びゆく双葉が表され、展望、見通しが明るいとのことから有孔黄銅製の「福銭」もそれぞれ埋納され、鳥居の堅固なることが祈られました。

さらには、同二十一日、「木造匏始祭」として、撤下御用材の再生に向けた神事が行われ、宮大工が古式の装束を著装し、

古代から中世まで使用されていた遣鉋が儀式として特別に用いられました。奉製にあたっては、巨大な檜製の柱のため、曲線に合わせた台鉋を新調し、数度の鉋掛けを行って木肌が整えられ、檜の木の香も復しました。そして、伊勢の地とは異なり、越中の地は積雪が多いことから新たに貫部にも銅板が葺かれ、耐久性が高められました。

また、高岡市消防団定塚分団と当社でも鳥居奉曳に合わせて法被をそれぞれ新調。あけぼの敬神講からは恒例により参集殿大玄関に装いを調べて紫木綿地菊花御紋幕が、拝殿には敬神家六氏により新たに白縮緬地菊花御紋大幕が献納され、さらなる機運の盛り上がりを見せました。尚、御幕の奉製に際しては、内務省神社局技師として射水神社の本殿以下の諸殿舎を設計した伊東忠太氏との所縁から、古記録と明治神宮や靖國神社の社頭が参考とされました。

四月四日夕刻、高岡市地方卸売市場では鳥居の笠木が奉安され、奉曳



法被の新調を伝える新聞記事(富山新聞 平成27年4月4日掲載)



木造鉋始祭-遣鉋の儀



特産物が積まれた奉曳車



高岡市地方卸売市場での祭典

祭で献納される高岡市農業協同組合よりの米俵三俵、株式会社高岡水産物市場よりの鯛と鰯各一对、丸果株式会社高岡青果市場から山野の野菜、また御神酒や昆布などの特産物が、役員、市場関係者や高尾宗清大木白山社宮司参列のもと、伊勢の神宮と射水神社を遙拝し、清祓が斎行されました。

翌五日、早朝よりお清めとなる小雨が降る中、菊花御紋幕や高張提灯、小型の神明鳥居で装飾された奉曳車はトラックに乗せられて卸売市場を出発。三月に開通した北陸新幹線新高岡駅頭では駅長、あいの風鉄道高岡駅でも敬礼作法による奉送迎のもと、奉曳出発地である高岡駅前には到着しました。

特にこのたびの奉曳は昭和四年の大嘗宮御下賜鳥居時の前例に倣い、実に八十六年ぶりとなるもので、県内一円より奉曳奉仕者として五百名が募られ、清浄を表わす特製「千早(稗)」と「参加の証(木札)」がそれぞれ配布されました。また交通規制申請や各町会、諸団体への広報については高岡町衆サロンとして街づくりに取り組む末広開発株式会社の御協力を頂きました。

奉曳車には鳥居の笠木とともに特産物が載せられ、出発式では修祓の後、松本宮司、橋総裁、また高岡市長代理として林副市長より御挨拶を頂きました。

大通りは全面通行止めとなり、万葉線も臨時停車し、詰めかけた人々が見守る中、富山県若鷲会による纏と梯子登りの披露の後、木遣りが先導し、高張提灯、横断幕、国旗、菊花御紋旗、社名旗、日月像幡、金鷄八咫鳥錦幡、大真榎台などの威儀物をボーイスカウト高岡地区協議会、高岡青年会議所、いみづ協賛会各会員が捧持警衛し、大麻所役、宮司、祓法被姿の役員が前行しました。

奉曳車は奉仕者の「エンヤ、エンヤ」の掛け声も勇ましく、



富山県若鷲会による梯子登り



くぐり初め



白布網には奉仕者が列なり、境内に響き渡る木遣りの中、奉揚される笠木



鳥居奉曳再建奉告と特産物奉納

曳綱を手に末広通りをゆっくりと進み、大御幣を捧持した宮大工や、高岡市消防団定塚分団が警衛、沿道所縁の高尾大木白山社宮司、原大杉神社宮司も供奉しました。

御列は進み、店頭を国旗で装飾し、商店主らが国旗小旗でお出迎え頂いた御旅



笠木の設置を見守る奉拝者

屋通りのアーケードではまた雨がひとしきり本降りとなりましたが、さらに進み行き、アーケードを抜けるころにはまた晴れ上がるといふ御神威に参加者も皆々感銘を覚えました。沿道の奉拝者や自社の法被や越中福岡特産の菅笠姿の奉仕者も列なり、大仏前を通過、駐春橋よりは

列次を整えて一気に境内へと参入しました。

桜花爛漫の参道を進み、参集殿前では高岡の街づくり活動に取り組む有志による振る舞い餅搗きがあり、境内ではあらためて梯子登りの妙技が披露され、最上部からの「奉祝 賜伊勢神宮鳥居奉曳祭」垂れ幕に喝采が送られました。

そして、笠木の両端に結びつけられた白布綱に奉仕者が列なり、境内に響き渡る木遣りの中、ゆつくりとクレーンで吊り上げられ、取り付けが完了すると、参拝者からは自然に大きな拍手の波が沸き起こりました。

利根川富山県若鷺会会長による粋な手締めの後、穴田会長、高橋高岡市長より御挨拶を頂き、修祓、くぐり初めとして宮司以下神職、神社役員、奉曳参加者と続きました。社殿では鳥居奉曳再建奉告と越中国特産物奉納の祝詞を奏上、神楽鈴と金銀扇を手にした巫女による末広の舞、玉串拝礼と続きました。

また鳥居建立後には、赤ちゃんの初宮詣の後、お食い初めで使用する「歯固め石」を産土神社から拝借する古例があることから、特に当社が越中総鎮守との由縁に

より県内の崇敬者が宮崎海岸と射水川（小矢部川）・庄川流域より集められた小石二樽も献納され、鳥居の基礎部分周囲を御影石で囲んで整備し、小石が新たに置かれることとなりました。

尚、このたびの奉曳行事は昭和四年の詳細なる記録「御下賜鳥居二関スル一件書類」簿冊が発見されたことにより、広く県民参加による神事として盛大に執り行われ、また昭和天皇即位の礼・大嘗祭にあたって下附された第一鳥居の復元ともなるもので、社頭に往時の姿が蘇ったことを特筆致します。

宮内省よりの御下賜送文



大嘗宮御下賜鳥居

86年ぶりに行われた富山県民参加による奉曳行事を大々的に伝える各紙記事（平成27年4月6日掲載）



北陸中日新聞



富山新聞



北日本新聞

社の景色

祭事暦（上半期）

1月1日	歳旦祭 初詣
1月14日	左義長 (射水の火祭り)
2月3日	節分祭
2月11日	紀元祭
2月17日	祈年祭
3月21日	春季皇霊祭
4月15日	高岡市護国神社 春季例大祭
4月18日	日吉社春祭
4月23日	春季例祭
4月26日	院内社春祭
4月29日	昭和祭
5月13日	悪王子社春祭
6月27日	鎮火祭
6月30日	夏越大祓 人形感謝清祓式
7月1日	職場安全祈願祭
7月10日	悪王子社秋祭
7月24日～26日	奉納書道展
8月7日	七夕短冊焼納祭
8月9日	崇敬奉賛会総会
毎月1日朔日祭・23日月次祭	

恒久平和への祈り

特集 大東亜戦争終結七十年

古城・椿山に鎮まる 高岡市護国神社

高岡古城公園、朱色の鮮やかな駐春橋近くの小高い丘が椿山です。昭和八年、ここに招魂碑が建立され、同十年十二月に高岡市招魂社が竣功いたしました。その後、昭和二十六年の高岡産業博覧会の際など、射水神社境内に志貴野神社として祀られた時期もありましたが、同二十七年に高岡市護国神社と改称、同三十七年には再び椿山に社殿が造営されて現在に至っています。



射水神社境内に鎮まる高岡市護国神社

春秋の例大祭

高岡市護国神社の春秋の例大祭は、富山県神社庁高岡・新湊支部神職も祭員として奉仕し、厳修されております。

四月十五日には、献幣使・慰霊会会長はじめ、ご遺族の皆様方の参列を賜わり、春の例大祭を斎行いたしました。

秋の例大祭は、十月八日に行われる予定となっております。終戦七十年にあたり、英霊への感謝と追悼の誠を捧げるため、ご家族でお参り下さい。



春季例大祭を奉仕して

高岡戸出地区

遺族会のご参拝

夏越大祓が執り行なわれた六月三十日、戸出地区遺族会の二十四名の皆様が高岡市護国神社にご参拝下さいました。

祖国を護るために戦地へと赴かれ、尊い命を犠牲にされた英霊によって、今日の「平和」が築かれていることを決して忘れてはなりません。



戸出地区遺族会の皆様

明治期から昭和期にかけての「参拝者芳名録」には、多くの陸海軍関係者の名前が遺されています。

林銑十郎は、第33代の内閣総理大臣で、護国神社の社号標も揮毫されました。



「射水神社参拝者芳名録」

ご奉納

・白縮緬地菊花御紋大幕 一張

向山 耕司 石黒 輝義

藤川 勝喜 嶋 安生

北村 麗子 向山 和子

・紫木綿地菊花御紋式台幕 一張

あけぼの敬神講

・菊花御紋提灯

北陸防水(株) 一對

松井 信之

井上機材(株) 一張

黒谷美術 一張

野村 利実

藤田 治彦

敬子 一張

谷口 拓哉

みづき 一張

・菅一文字笠(越中福岡産)二十枚

匿名

(敬称略)



『週刊日本の神社』

射水神社特集号が発行



描き下ろしの大判CG鳥瞰
図など、見応え満載

デアゴスティーニ・ジャパンより発行の『週刊日本の神社』第80号(平成27年8月11日発売)で、当社が特集されました。

全ページ、カラーの見応えのある誌面もさることながら、その内容も大変充実しており、これまであまり知られることのない当社の一画や逸話にも触れ、珠玉の一冊となっています。

ぜひ、ご覧下さい。



(※本誌は神社でもお受けいただけます)

神前結婚式

平成二十七年

睦月 一月奉式

橋口 和典・綾
村上 彰・真樹
中尾 真夢・智子
彌生 三月奉式
門口 昌弘・知恵子
瀧 秀介・美由貴
屋敷 宜紀・千明
堀川 秀幸・美幸
石崎 聖・美知子
竹島 伸吉・朋子
堀田 尚之・早英
北嶋 貴之・千春
相見 隆昇・結香
吉澤 義彰・勝美
前田 知也・裕美
三部 裕一・綾花
岩坪 佑亮・系保
卯月 四月奉式
仲表 俊久・今日子

皐月 五月奉式

高木 亮輔・その
北野 吉敬・るりこ
石塚 和洋・春香
山本 満彦・博美
笠島 崇・幸恵
佐賀野 貴也・まみ
澤田 祐介・美夏
横川 雅一・友恵
大井 僚・友紀子
藤川 光利・こずえ
樋口 祐輔・郁子
五十井 靖明・由香利
端 俊治・杏奈
イサヴン・ボリス・真奈美
青木 卓也・浩美
皐月 五月奉式
矢地 亮裕・美幸
川津 良尚・理恵子
高嶋 康人・由香里
蟹谷 浩志・匠子
杉野 雄一・智美

水無月 六月奉式

山本 一貴・由利絵
金刺 順雅・恵
藤原 拓也・友江
小倉 幸久・麻琴
宮田 幸作・真理
山本 洋一・美香子
石山 和男・亜紀
岡崎 知康・未沙紀
高田 圭・咲耶
佐々木 宏・広子
水無月 六月奉式
岩城 勇佑・麻希
屋鋪 圭佑・美玲
北野 寿郎・雅子
中井 兵馬・美聡
市田 誠・和恵
中田 将士・ちはる
萩原 康忠・昭枝
新井 規朗・睦
清水 智之・愛弓
米島 悟・恵子
西守 比呂志・澄子

七五三

宮まいりのご案内

七五三とは、三歳の男女（髪置）、五歳の男児（袴着）、七歳の女児（帯解）のお祝いで、大人に近づいていくことを神様にご奉告、感謝し、成長を祈る行事です。お子さまの今日までの無事な成長に感謝し、今後の幸せと成長をお祈りする大切な日は、射水神社にお参りください。

うつくしの社で、一生残る感動の一日を。

平成27年 七五三年表			
※数え年齢・満年齢どちらでもお受けてできます。			
	数え年齢	満年齢	性別
7歳	平成21年生	平成20年生	女の子
5歳	平成23年生	平成22年生	男の子
3歳	平成25年生	平成24年生	男の子 女の子

※数え年とは生まれた年を「二歳」と数え、お正月を迎えるたびに日本人のすべてが神々から新しい生命を頂き、一つずつ年齢を重ねる数え方です。

※その他、衣装・着付・写真など、便利なセットもございます。詳細は社務所までお気軽にお問い合わせください。



『ふるさと』 射水神社

② 式年大祭齋行のこと (その二)

昭和二十年八月の終戦と共に、国幣中社の社格は廃せられた。

従来官費によって一切を奉仕運営されていた神社だけにこの廃格により、氏子を持たぬ神社の荒廃は甚だしく、備品・什器の他、重要な神器、神宝までもが散失した。

この由緒ある神社の衰頹極まりないのに恐懼した木津太郎平氏（元代議員、元高岡市長）は、自ら主管となり、堀井長平氏（実業家）が奉賛会長として神社復興に献身的努力を捧げられた。

その後、主管には館哲二氏（参議院議員、元内務省神社局長、元内務次官、奉賛会長には井上塩六氏（元高岡商工会議所会頭）が就任されると、御神威はさらに発揚され、昭和二十九年九月十一・十二日には、御遷座八十年祭が齋行された。

快晴の十一日、「高岡総祭」として、四十年祭以来途絶えていた神幸の儀が古式に則り、高辻武邦氏（富山県知事）を総裁、堀健二氏（高岡市長）を

副総裁として盛大に厳修された。また同日、高岡商工会議所主催の商工祭が賑やかに執り行われ、神幸の儀に併せて、仮装行列も市内を練りまわり、人出は七万人に及んで高岡は奉祝ムード一色となった。

次いで、昭和三十九年九月十一・十二日に御遷座九十年祭齋行。

昭和五十年四月には、天武天皇三年正月、対馬の国司が初めて銀を貢上の時、これは目出度いことだと、悉く諸々の神祇に幣帛を奉られた『日本紀』の史実に拠って、「御鎮座千三百年・御遷座百年祭」を齋行。

同二十二日の神輿渡御では、発興祭の後、二上山麓までは約七キロの道のりで、途中、小矢部川を渡り旧神領地に入ると、神輿は地元の人々も交えて盛大に担がれ、二上の射水神社に入った。

翌二十三日、午前十時からの式年大祭では、畏き辺りよりの奉幣の儀も齋行され、神社本庁からは金子事務副総長が献幣使となつて、本庁幣を奉献した。

翌二十四日には、生業繁栄祈願祭並びに交通安全祈願祭が齋行された。また、越中民謡奉納奉納相撲大会、吟詠・謡曲奉納など、連日盛大な奉祝行事も数々

執り行われた。

その後、この式年大祭は一時途絶えるも、平成十七年九月十四日から十六日の三日間に亘り、「御鎮座千三百年・御遷座百三十年祭」を齋行。三十年ぶりとなる神輿渡御では、二上地内の氏子の方々からも温かくお出迎えを頂き、二上射水神社のゲンダイ獅子の先導により、賑々しい元宮入りとなった。

また、この式年大祭に併せて、外拝殿の移設と拝殿の拡張、授与所・神饌所の増改築等が行われた。

(完)



還幸の途につく一行

編集後記

本年は、終戦七十周年の節目の年にあたります。本社の末社、高岡市護国神社の英霊をはじめ、全国の英霊に哀悼の誠を捧げましょう。

第二十四号となります今号も、式年大祭記念事業のご報告等、盛りだくさんの紙面となった為、前号に引き続き四ページ増の編集とさせて頂きました。

九ページにご案内をさせて頂きましたように、デアゴステイニ・ジャパンより発行されている『週刊日本の神社』第八十号（八月十一日発行）に当社が紹介されました。分かりやすくまとまっていますので、ぜひ手に取ってご覧頂けたらと思います。

いよいよ式年大祭が賑々しく齋行されます。皆様にはご参拝いただき、ご神縁をお結び下さい。

発行 射水神社
発行日 平成二十七年八月
発行所 〒九三〇四四高岡市古城一
TEL (〇七六六) 二二一三二〇四
FAX (〇七六六) 二二一三七一五
印刷所 キクラ印刷株式会社

越中総鎮守一宮

射水神社

鎮座1340年
遷座140年

式年大祭

「式年」^{しきねん}とは、定まった年の意で、「大祭」^{たいさい}とは、ご祭神と関係の深い、神社に特別の由緒ある大切なお祭りのことです。
当神社では、「二上神」^{ふたがみのかみ}の古城へのご遷座^{せんざ}を寿ぎ、十年毎に式年大祭が行われています。

●9月21日(月)敬老の日

稚児社参(10時) 天和高岡店前→本社

神賑奉納行事 ※雨天の場合は延期

- ◆神前供茶・拝服席 (米道裏千家淡交会高岡支部) 13時供茶・舞 13時30分小唄振席・野点
- ◆吹奏楽奉納演奏 (富山県立高岡商業高等学校吹奏楽部) 11時20分・正午・(室内特設舞台)
- ◆管絃・舞楽奉納 (射水雅楽会) 13時30分 (室内特設舞台)
- ◆勸進狂言 18時 (室内特設舞台) 一般入場料 松...500円 竹...300円 梅...200円

●9月22日(火)国民の休日

神輿渡御(発輿7時 還幸18時) ※各町時は目安

- 射水神社(発輿7時) 坂下町・本町・大坪町・あわら町・熊野町→
- 先宮 熊野神社(御旅)→二上橋・守護町・上二上→諏訪社(御旅)→
- 院内社(御旅)→二上射水神社(御旅)→下二上・二上橋→木町神社(御旅)→
- 五福町・京町→高岡商工会議所(御旅)→広小路・中川・桜馬場・末広町→
- 大和高岡店前(御旅)→御旅屋通り・古城公園大入口→
- 高岡市護国神社(御旅)→17時30分・17時50分→射水神社(還幸)18時

●9月23日(水)秋分の日

式年大祭・慶賀祭(10時)〔本社〕



浦安の舞



舞祭 蘭鏡狂



稚児社参

和歌流二十色音楽
和歌元踊師

和歌流四家伝承
和歌流楽分年頭 十色
三宅藤九郎師



高岡商業高等学校
吹奏楽部

平成26年度
平成27年度

全日本マーチングダンス大会
全日本吹奏楽コンクール
全国吹奏楽大会
全国吹奏楽大会
全国吹奏楽大会

越中総鎮守一宮

射水神社

射水神社

検索

URL <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール info@imizujinja.or.jp

お問合せ [〈社務所〉\(0766\)22-3104](tel:(0766)22-3104) [〈結婚式場〉\(0766\)22-0808](tel:(0766)22-0808)